

第1図は、発見直後の写真で、竜巻はすでに成熟期に達しています。第2図は、それから約10分後の消滅直前の写真で渦は細くなり、巻きあげる水煙の量も小さくなっています。

竜巻発生の3時間前の地上天気図を第3図に示しますが、発見位置(図中○)の東側には寒冷前線が描かれており、発見位置の近くには、積雲ないし雄大積雲の存在

が示されています。第4図は天気図と同時刻のGMSの可視画像です。天気図の前線に沿って2本のロープ状雲が存在し、また竜巻発生地点の西側にも同様の雲があり、竜巻発生との関連性を示唆しています。また、この日は西高東低の気圧配置で強い寒気の吹き出しがあり、筋状雲が顕著に発達しています。

第2回統計気候学国際会議のお知らせ

第2回統計気候学国際会議(The Second International Meeting on Statistical Climatology)が1983年9月26~30日にポルトガルのリスボンで開催されます(公用語; 英語)。この会議は同年9月12~22日にスペインのマドリッドで開催される第44回国際統計学会に引きついで開催されるもので、現在組織委員会(A.H. Murphyを議長とし委員のメンバーは R. Czelnai, O. Essenwanger, L.A. Mendes Victor, E.L. Scott, R. Sneyers, 鈴木栄一, E.J. Wegman)で準備が進められています。

会議の技術部門では統計手法の気候学への応用と気候資料の統計解析について焦点をあてることを考えており、組織委員会では特に下記のような論文を求めています。

- (1) 気候調査網についての構想
- (2) 気候資料の確率・統計モデル
- (3) 気候資料の時系列解析及びスペクトル解析
- (4) 気候資料の新しい統計解析法
- (5) 統計的気候予報
- (6) 気候シミュレーション実験の統計解析
- (7) 気候学のベイズ統計 (Bayesian statistics)
- (8) 気候資料を用いるための統計法
- (9) 気候の影響評価に注意した統計法
- (10) 気候情報の価値と利用

予稿集に論文を載せたいと考えている方は、reviewer's abstract (およそ400~500語)と publication abstract

(125語以内)を下記の Dr. Murphy 宛に、1983年2月11日までにお送り下さい。これらのアブストラクトは審査の結果載せるかどうかが決められ、1983年3月中に通知されます。同時に審査を通った人には締切り等を含めた連絡もありますから、それに従って原稿を期日までに提出して下さい。

会議の開催場所はリスボン郊外の The Hotel Sintra Estril (Estrada Nacional No.9, Alcabideche, Cascais) です。その他費用等は下記へ御問い合わせ下さい。

Instituto Nacional de Meteorologia e Geofisica, Rua C-Aeroporto, 1700 Lisboa, Portugal.

また、この会議についての簡単な紹介文は「天気」編集委員会にもありますが、もっと詳しく知りたい方は、下記の Dr. Murphy と連絡をとって下さい。レビューのアブストラクト、論文のアブストラクトと同じ宛先です。

address: Department of Atmospheric Sciences, Oregon State University, Corvallis, Oregon 97331, U.S.A (Telephone: 503-754-4557, Telex: 510 596 0682 OSU COVS).

なお、第1回統計気候学国際会議は1979年11月29日~12月1日に東京八王子の八王子セミナーハウスで開催されており、その報告は Statistical Climatology (Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam—Oxford—New York, 1980) に詳しくなされています。